要介護者宅における家鼠問題と咬傷事例

谷 川 力¹⁾ 松田 澄子²⁾ 國 弘 明子³⁾ 金子 史 恵⁴⁾
齊 藤 和 夫⁵⁾ 伊 藤 靖 忠⁶⁾

¹⁾ イカリ消毒(株)技術研究所
(〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町 579)

²⁾ 東京都健康局地域保健部
(〒163-8001 新宿区西新宿 2-8-1)

³⁾ 品川区保健センター
(〒140-0001 品川区北品川 3-11-22)

⁴⁾ 多摩小平保健所
(〒187-0002 小平市花小金井 1-31-24)

⁵⁾ 大田区保健所
(〒144-8621 大田区蒲田 5-13-14)

⁶⁾ 日本環境衛生センター
(〒210-0828 川崎市川崎区四谷上町 10-6)

(受領: 2004 年 7 月 5 日; 登載決定: 2004 年 11 月 19 日)

Rat problems and a case of an elderly nursing patient bitten by a roof rat

Tsutomu TANIKAWA¹⁾, Sumiko MATSUDA²⁾, Akiko KUNIHIRO³⁾, Fumie KANEKO⁴⁾,
Kazuo SAITOH⁵⁾ and Yasutada ITO⁶⁾

¹⁾ Technical Research Laboratory, IKARI Corporation, 579 Chibadera, Chuo-ku, Chiba, 260-0844 Japan

²⁾ Community Health Service Division, Bureau of Public Health, Tokyo Metropolitan Government,
2-8-1 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, 163-8001 Japan

³⁾ Shinagawa City Health Service Center, 3-11-22 Kita-Shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo, 140-0001 Japan

⁴⁾ Tama-Kodaira Public Health Center, Hanakoganei, Kodaira, Tokyo, 187-0002 Japan

⁵⁾ Ota Health Center, 5-13-14 Kamata, Ota-ku, Tokyo, 144-8621 Japan

⁶⁾ Department of Environmental Biology, Japan Environmental Sanitation Center, 10-6 Yotsuyakami,
Kawasaki, 210-0828 Japan

(Received: 5 July 2004; Accepted: 19 November 2004)

Abstract: Recent infestation of roof rats in urban areas has caused serious problems among old people who need social welfare services. A questionnaire to care workers in Tokyo revealed cases of old people bitten by rats. Our examination of one of these cases showed that it had been caused by a roof rat. Care workers also claimed in the questionnaire that rooms had been fouled with droppings, residents had been bitten by rat mites, and rat noise disturbed their sleep at night.

Key words: roof rat, rat bite, old people

はじめに

東京都内の一般住宅地においても、家ネズミ類の増加が1990年代半ばより知られるようになり、その主な構成種はクマネズミ *Rattus rattus* (Linnaeus) であると考えられている(國弘, 1996, 1998, 2000; 矢部, 1997, 2000; Yabe et al. 2000; 矢口, 2000; 環境省, 2001; 谷川ら, 2002; ねずみ駆除協議会, 2003; 日本ペストコントロール協会感染症対策委員会, 2004)。一方、介護を必要としている高齢者宅においてネズミによる被害が深刻な問題となっている。そこで、著者らは被害の実態を把握することを目的として、ネズミの生息状況・被害実態アンケート調査を実施した。その結果、高齢者のネズミによる咬傷例が2件発生していたことが確認された。今回、そのうちの1件の住宅を調べる機会を得、被害発生要因について調べた。

調査方法

アンケート調査は、2003年11月に東京都内の東京都介護支援専門員研究協議会会員(ケアマネージャー)を対象に実施した。

一方、被害者宅調査は2004年5月20日に実施した。ヘルパーサービス会社にてケアマネージャーから必要な情報を得た後に、被害者宅を訪問し、被害者・介護補助員に直接聞き込みと目視による調査を実施した。なお、被害者宅は独立家屋で、築年数は不明であるが相当に古く、増築されていた。また、その家には被害者のみが生活していた。

結果と考察

アンケート調査では、815件の発信中55件の回答を得た(回答率6.7%)。そのうち、過去1年間に、担当する介護サービス利用者宅(第1号被保険者: 65歳以上の高齢者)でネズミによる被害があったと回答した件数は41件で、全体の74.5%(41/55件)と高率であっ

た。また、回答者が担当した全利用者の4.6%(107人/2,348人)で、ネズミによる被害例が報告された(Table 1)。主な被害内容は、糞が散乱して不衛生という回答が88人、ネズミの家屋内への侵入・定住に起因するイエダニによる被害が28人、騒音により夜寝られないことで、日中に寝てしまい、食事や服薬、デイケアなどのケア体制がうまく遂行できないが14人などであった。これらの回答の中に人体の咬傷例が2件あった。うち1例では、ネズミによる咬傷を受けた介護高齢者は東京都内に在住する女性(70代後半)で、要介護状態区分は「要支援」である。週1回、主に清掃を訪問介護員(ホームヘルパー)に依頼している。心臓疾患等の持病により、複数の病院に通院している。ネズミによる被害は2003年9月30日就寝中に左足親指を咬まれたというものであった。咬傷は数日で治癒する軽傷であった。またペットとして飼育している屋内犬も咬まれたと報告を受けた。この1例について、より詳細な分析を目的として現地調査を実施した。

その結果、まず目視によりクマネズミの生息を確認した。2003年に咬傷を受けた後もネズミの被害が減少していないということと合わせて、この被害者の咬傷はクマネズミによるものと推定した。また、ネズミの餌となる食物は、食痕と被害者からの情報により仏壇の供物が中心であると判断された。仏壇周囲にはラットサインやその天上に齧られてできた侵入穴が確認され、常時ネズミが活動していることがうかがえた。残飯類、室内犬用ペットフード等も餌として利用されていることが推測されたが、調査当日にはペットフードは冷蔵庫内に入れられ、残飯類もフタのついた容器内に入れられていた。被害者宅では数年前からネズミが多数横行したために、ペットフードや残飯等の整理・清掃を実施しており、餌不足に陥ったため、もしくは偶発的に居住者の足の指を咬んだ可能性が高いのではないかと考えた。さらに、居住者はネズミが夜間騒ぐために安眠できず、その結果日中に寝てしまう傾向があった。これにより、疲労感が癒

Table 1. Result of questionnaires to care workers in Tokyo on commensal rat problems among old people who need social welfare services.

Trouble	No. of responses
Fouling of rooms with droppings	88
Rat mite bite	28
Difficulty in caring for clients who were sleeping daytime due to night disturbance by rat	14
Worsening of physical conditions of clients by sleeplessness	8
Causing care workers to be reluctant to visit residents	10
Rat bite	2
Others	24

されただけでなく、食事の管理と服薬管理ができないため、持病が悪化する可能性が示唆された。

この住宅は以前ネズミ問題でPCOが対応したことがあったが、床下通風口を金網で塞ぐだけで、他の侵入口、例えば戸袋、エアコン導入口、大きく開放された緑の下等は塞がれていないだけでなく、捕獲や殺鼠剤による施工もなかった。また、ネズミが減らない理由の一つに、仏壇の供物と花が常時交換され、これがネズミの餌となっていることのほかに、屋外との往来で屋外からも餌を得ている可能性が考えられる。さらに、居間など居住者が利用しなくなった空間が多く、そのような場所にネズミの糞が多数認められた。天井裏や壁の内側など営巣可能な場所を含めて、ネズミの住みやすい要因を多く作っており、これもネズミの減少につながらない原因と考えられた。

昨今、ネズミ生息が認められる要介護者宅に対して、ホームヘルパーが訪問を敬遠する事態も生じている (Table 1)。ホームヘルパーにイエダニが付くと次の訪問宅に迷惑をかける恐れがあり、ネズミの糞による汚染も含めて不衛生であることから着替えを要し、次の要介護者宅に訪問する時間がとれなくなるためである。さらに、居住者のみでなく介護者にとっても鼠咬症、レプトスピラ症などの感染症への対策が今後必要になることも予測される。

謝 辞

本稿を終えるにあたり、ご指導ご協力をいただきました

た東京都健康局の仁科彰則氏、田中 誠氏、東京都西多摩保健所の阿部圭美氏、および東京都健康局ねずみ対策検討委員会 (小林睦生委員長、田中生男、元木 貢、野啓子、三好光吉各氏) の皆様に深謝いたします。

引用文献

- 環境省. 2001. ねずみ・衛生害虫等発生状況. 生活と環境, 46: 87-88.
- 國弘明子. 1996. クマネズミの被害からみえる都市生活と防除. ペストコントロール, 95: 44-48.
- 國弘明子. 1998. 大都市の一般住宅におけるネズミ事情. ねずみ情報, 49: 2-6.
- 國弘明子. 2000. 品川区における最近のクマネズミ事情. 生活と環境, 45: 29-32.
- ねずみ駆除協議会. 2003. ねずみの生息実態に関するアンケート調査. ねずみ情報, 54: 1-45.
- 日本ペストコントロール協会感染症対策委員会(編). 2004. 平成14年度一般住宅におけるネズミ実態調査. 31pp. 日本ペストコントロール協会, 東京.
- 谷川 力, 小瀧正博, 田邊 光, 内田明彦. 2002. 東京都大田区内におけるクマネズミの商業地域から住宅地域への分散. 衛生動物, 53: 199-202.
- 矢部辰男. 1997. 都市におけるドブネズミとクマネズミの種類構成の変動. 衛生動物, 48: 285-294.
- 矢部辰男. 2000. 日本の都市にクマネズミが増えた理由. 生活と環境, 45: 12-16.
- Yabe, T., Asai, R., Takagi, Y. and Kohsaki, K. 2000. Reason for the recent increase of roof rat infestation in residential areas in Tokyo. *Med. Entomol. Zool.*, 51: 211-213.
- 矢口 昇. 2000. 都市の住宅街に広がるクマネズミ. 生活と環境, 45: 23-28.